

プログラミング 入門編に挑戦 津の高田短大で小学生が体験

小学生がプログラミングに触れる体験教室（中日新聞社主催）が19日、津市の高田短期大であった。市内



プログラミングに取り組む参加者ら＝津市の高田短期大で

を中心に県内の小学4～6年生9人が参加した。講師は同短大キャリア育成学科オフィスワークコースの広田千明教授が務めた。人口が減り労働力減少が進む中で、バスの自動運転やドローンによる物資輸送など、プログラミングの重要性を子どもたちに説明した。

子どもたちは猫のキャラクターを動かす課題などに挑戦。入門用のプログラミングソフトを使って、猫を左右に動かすなど簡単な動きを組み合わせながら、自由にキャラクターを動かして楽しんでいた。

津市一身田小6年の中村祭里さん（12）は「簡単にキャラクターを動かせて、自分ならではの個性のあるキャラクターを作れた」と笑顔を見せた。

体験教室は、全国選抜小学生プログラミング大会県大会の作品募集（9月30日まで）に合わせた企画。県大会では「みんなの面白い」をテーマに、プログラミング作品やアイデアを募っている。最優秀賞受賞者は、県代表として2026年3月の全国大会に出場する。問い合わせは、県大会事務局へメール（アドレス＝program.miken@gmail.com）で。

（沢井秀之）